

(証券コード) 4594



2 0 1 7 年 3 月 期 決算説明会

2017年5月24日

株式会社グリーンペプタイド

本資料の取扱いについて（免責事項）



本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。

当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。

本資料は、投資者に対する情報提供を目的として、経営情報や財務情報等の情報及び将来の事業計画等を記載したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際には、ご自身のご判断で行うようお願いいたします。

研究開発中の医薬品に関する情報を記載しておりますが、広告宣伝、医学的アドバイスを目的にしているものではありません。

本資料に記載された情報につきまして、予告なく変更される可能性があります。本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

1. 2017年3月期 決算概要	P 4
2. 事業の概要	P10
3. 社名変更のお知らせ	P30
4. 補足資料	P34

2017年3月期決算概要

2016年度 IRトピックス

既存 ←

→ 新規

ITK-1
Ph3 遂行
(前立腺がん)

GRN-1201
米Ph1 + 新規適応準備
(メラノーマ)

新規パイプライン
リソース整備 + 導入

2016

5.2 症例登録完了

8.25
川崎創薬研究所
竣工

11.21
iPS由来再生T細胞療法
の導入 (リンパ腫)

12.9
ネオアンチゲン・ペプチド
ワクチン導入 (肺がん)

2017

1.27
非小細胞肺がん対象
免疫チェックポイント抗体併用
Ph2(米)開始

2017年3月期 損益計算書



(単位：百万円)

	2016年3月期 (単体)	2017年3月期 (連結)	増 減※
売上高	822	529	△292
売上原価	771	524	△246
売上総利益	50	4	△46
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	1039 (848)	1,118 (816)	78 (△32)
営業利益	△988	△1,113	△124
経常利益	△992	△1,116	△123
当期純利益	△994	△1,113	△119

● ITK-1 Ph3試験 観察期間入り→治験実施業務平準化→ライセンス先開発協力金減

● 新規パイプライン創成のための組織インフラ整備＋導入
● GRN-1201 米国Ph1試験実施中でCMC費用発生せず

→ オフセット

※ 当社は、当連結会計年度より連結計算書類を作成しています。増減につきましては、比較有用性の観点から当期（2017年3月期）の連結経営成績と、前期（2016年3月期）の個別経営成績との増減比較を表示しております。

2017年3月期 貸借対照表



(単位：百万円)

	2016年3月期 (単体)	2017年3月期 (連結)	増 減※
流動資産 (構成比)	2,791 97.0%	5,239 96.9%	2,488
固定資産	85 3.0%	168 3.1%	82
流動負債	128 4.5%	161 3.0%	32
固定負債	27 1.0%	45 0.8%	18
純資産	2,720 94.6%	5,201 96.2%	2,480
総資産	2,877	5,408	2,531

● 新株予約権を用いた資金調達により現預金増加 (3,559百万円)

※ 当社は、当連結会計年度より連結計算書類を作成しています。増減につきましては、比較有用性の観点から当期（2017年3月期）の連結経営成績と、前期（2016年3月期）の個別経営成績との増減比較を表示しております。

2017年3月期 キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2016年3月期 (単体)	2017年3月期 (連結)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△908	△1,067
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32	△96
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,672	3,559
現金及び現金同等物 増減額	1,731	2,395
期首残高	823	2,555
期末残高	2,555	4,950

● 新規パイプライン創成のためのリソース整備

➤ 川崎創薬研究所(ラボ)創設に伴う設備投資

➤ 新株予約権スキームによる資金調達(株式発行)
(前期は株式公開時の公募増資)

※ 当社は、当連結会計年度より連結計算書類を作成しています。増減につきましては、比較有用性の観点から当期（2017年3月期）の連結経営成績と、前期（2016年3月期）の個別経営成績との増減比較を表示しております。

2018年3月期 連結業績見通し



(単位：百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	増 減
売上高	529	280	△249
営業利益	△1,113	△2,000	△886
経常利益	△1,116	△2,000	△883
当期純利益	△1,113	△2,000	△886

2017年度

ITK-1

最終局面→2018年度
Ph3 キー・オープンへ

GRN-1201

米国 併用Ph2遂行

新規パイプライン

導入パイプライン開発遂行
+さらなる新規創成

• 研究開発費 816→1,600百万円

既存 ←

→ 新規

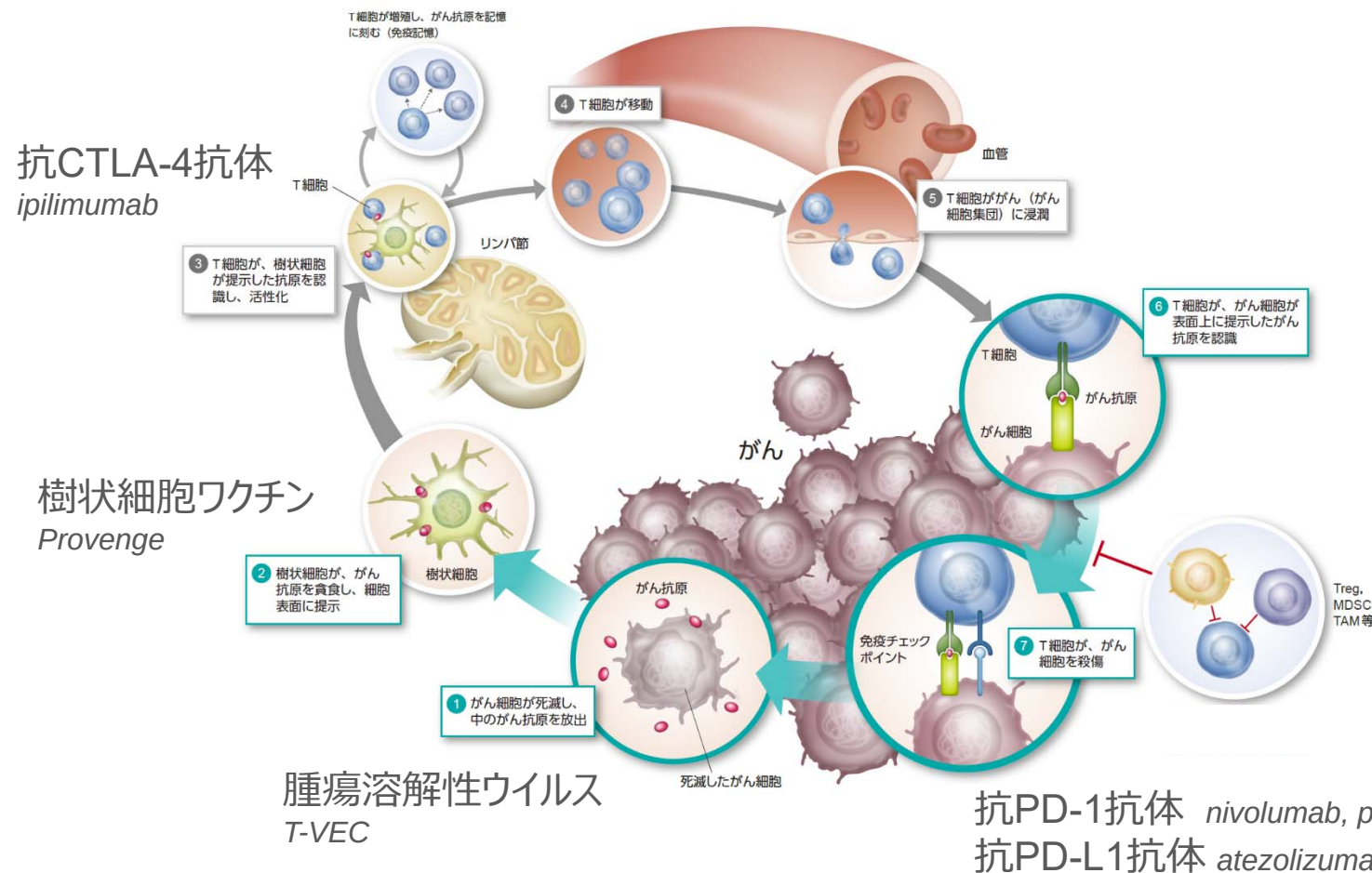
事業の概要

がん免疫治療薬の市場規模

2017年の約5兆円規模から2025年までに約10兆円規模へ

出典：Nature Reviews Drug Discovery 16, 83–84 (2017)

がん免疫のサイクルと上市されたがん免疫治療薬



2016.3決算発表時点のパイプライン

プロジェクト	適応症	地域	基礎研究	非臨床試験	Phase I	Phase II	Phase III	上市
ITK-1 薬剤選択型ペプチドワクチン 富士フイルム(株)へ導出	前立腺がん	日本						
GRN-1201 4種ペプチドワクチン	メラノーマ	米国						

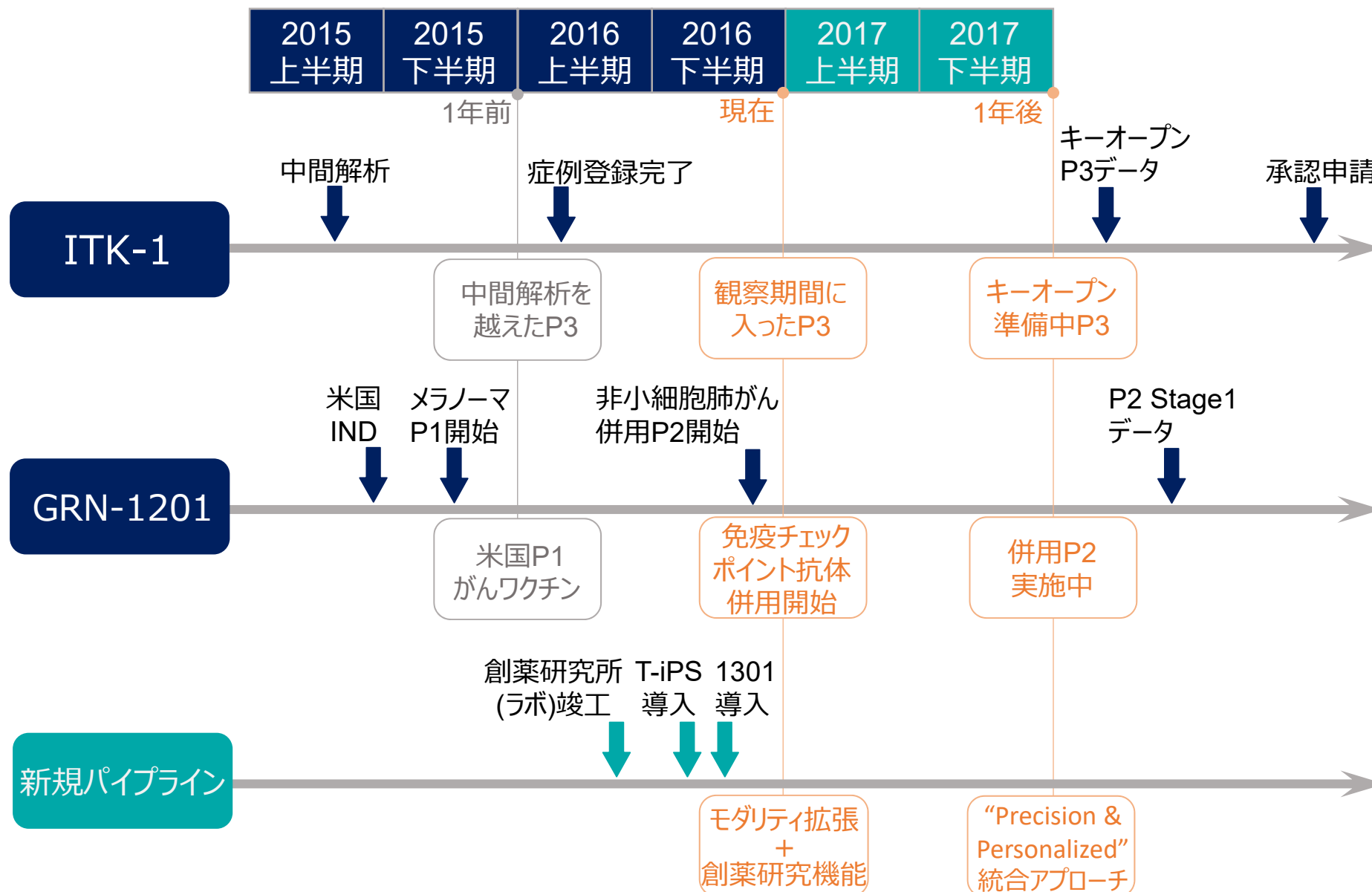
新たに3つのパイプラインを追加



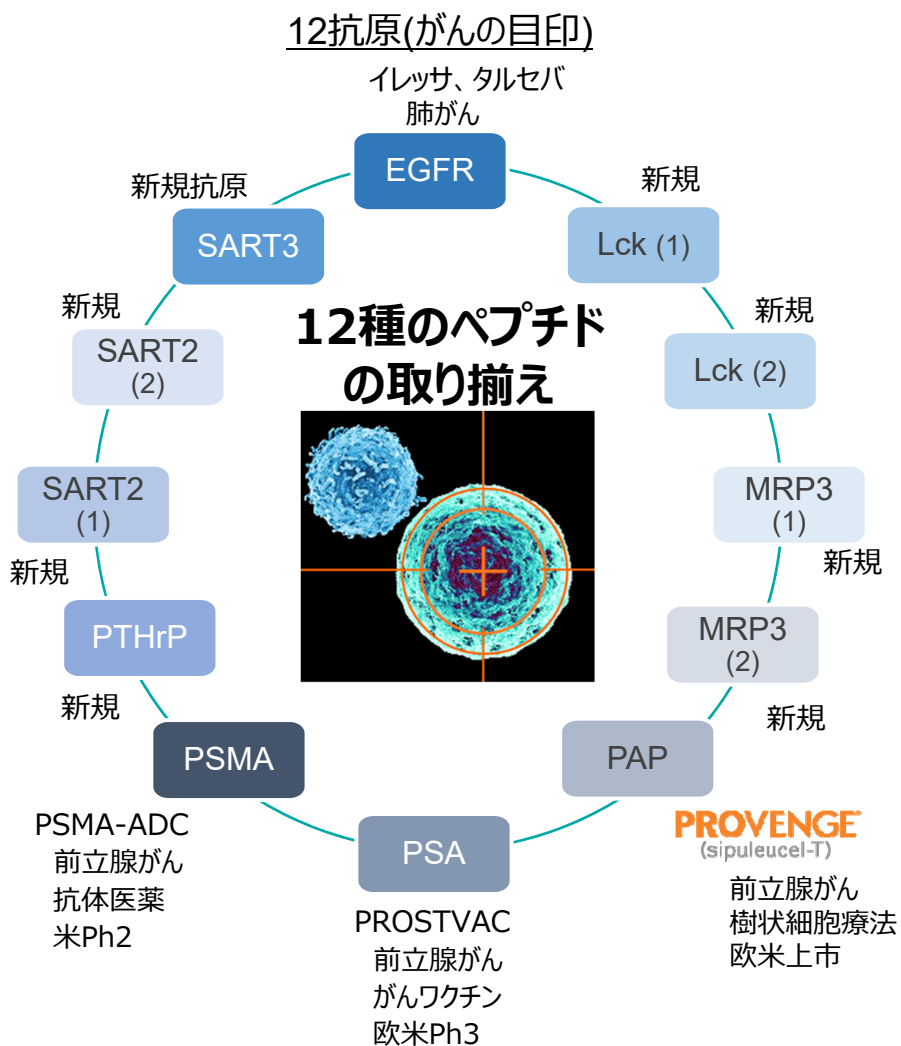
現在のパイプライン

プロジェクト	適応症	地域	基礎研究	非臨床試験	Phase I	Phase II	Phase III	上市
ITK-1 薬剤選択型ペプチドワクチン 富士フイルム(株)へ導出	前立腺がん	日本						
GRN-1201 4種ペプチドワクチン	メラノーマ	米国						
	非小細胞肺がん	米国	 ①免疫チェックポイント抗体併用					
GRN-1301 ②ネオアンチゲンワクチン	非小細胞肺がん	-						
T-iPS iPS細胞由来 再生③T細胞療法	EBウイルス由来リンパ腫	-						

立ち姿の変遷



テラーメイド型ペプチドワクチン



投与前

既存の免疫応答
検査免疫反応しやすい
4種を選択投与

特長 1

個別化医療の実現

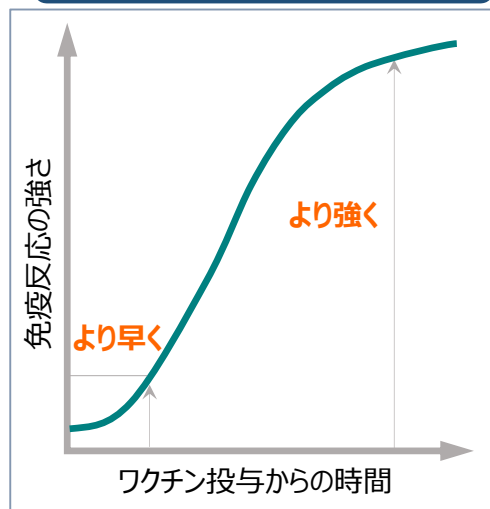
一人ひとりのがん免疫に対応

4種選択投与



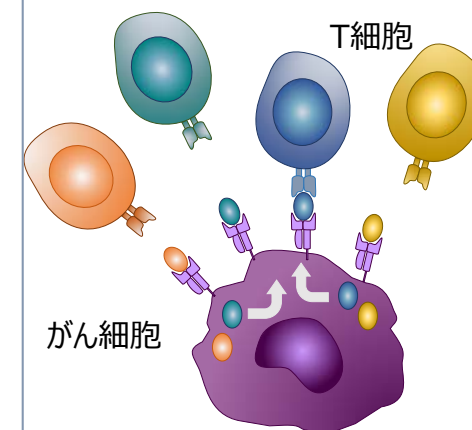
免疫起動時間短縮

持続性/自己増殖



エスケープ回避

4種類の細胞傷害性T細胞で攻撃



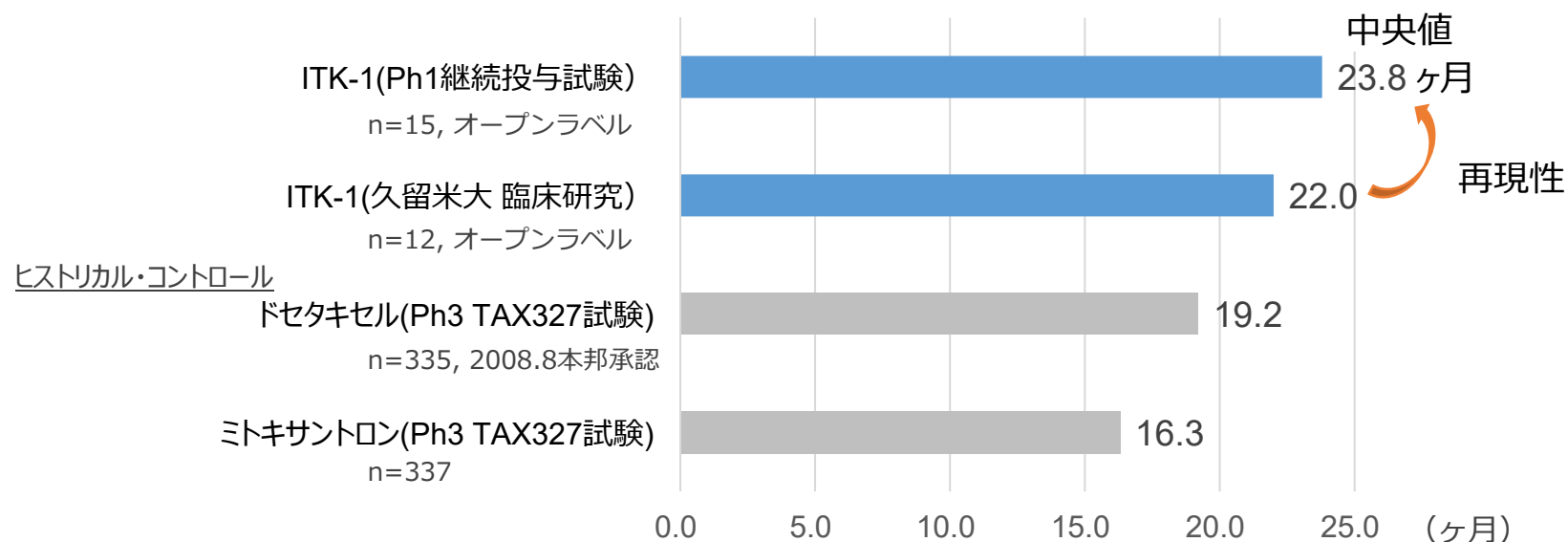
特長 2

経済性の担保

化学合成ペプチドの製造効率



去勢抵抗性前立腺がん対象臨床試験 全生存期間(Overall Survival)



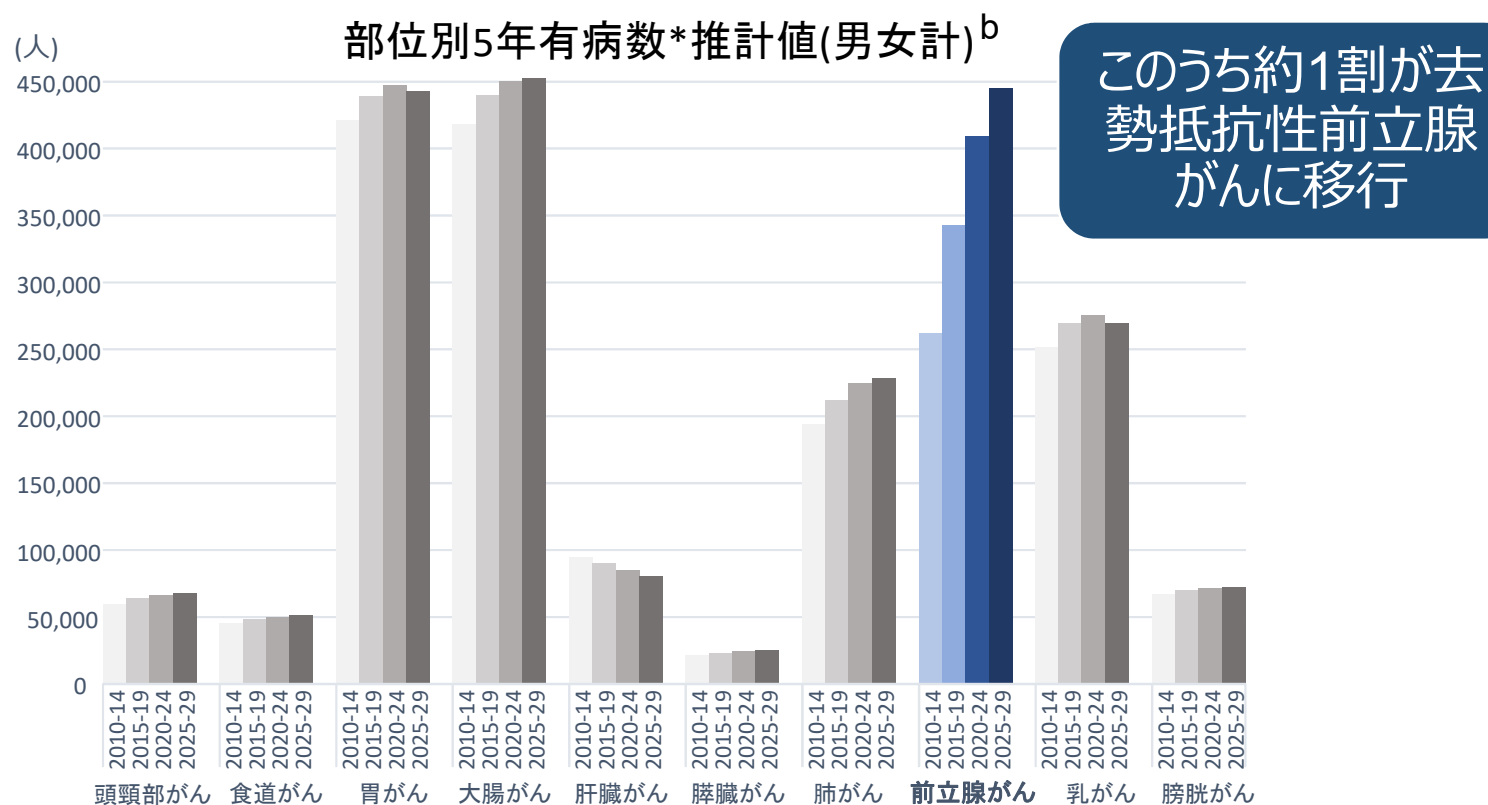
(出所)

※1 当社データ / ※2 Noguchi M, et al. *The Prostate* 2011; 71: 470-479 / ※3 Berthold DR, et al. *J Clin Oncol* 2008; 26: 242-245

投与対象患者

- 前立腺がん全体で2016年罹患者数92,600人^a
- 投与対象は、去勢抵抗性前立腺がん x HLA-A24占有率60%

☞ 前立腺がんのうちホルモン療法が効かなくなった状態のがん



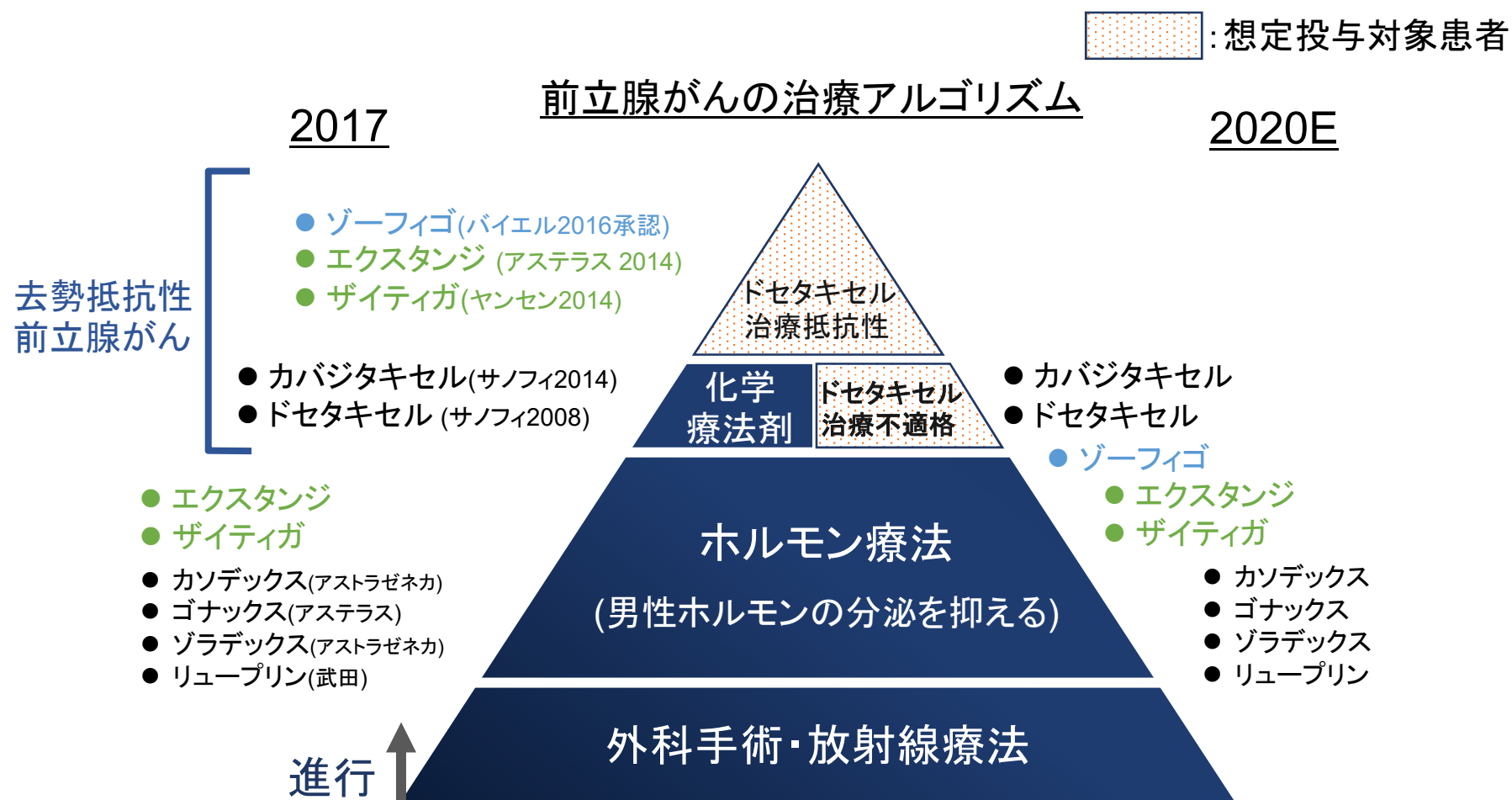
*過去5年以内にがんと診断され、推計対象年に生存している者の数

a 出所：国立がん研究センター 2016年のがん統計予測

b 出所：がん・統計白書2012-データに基づくがん対策のために（篠原出版新社） 国立がん研究センターがん対策情報センター

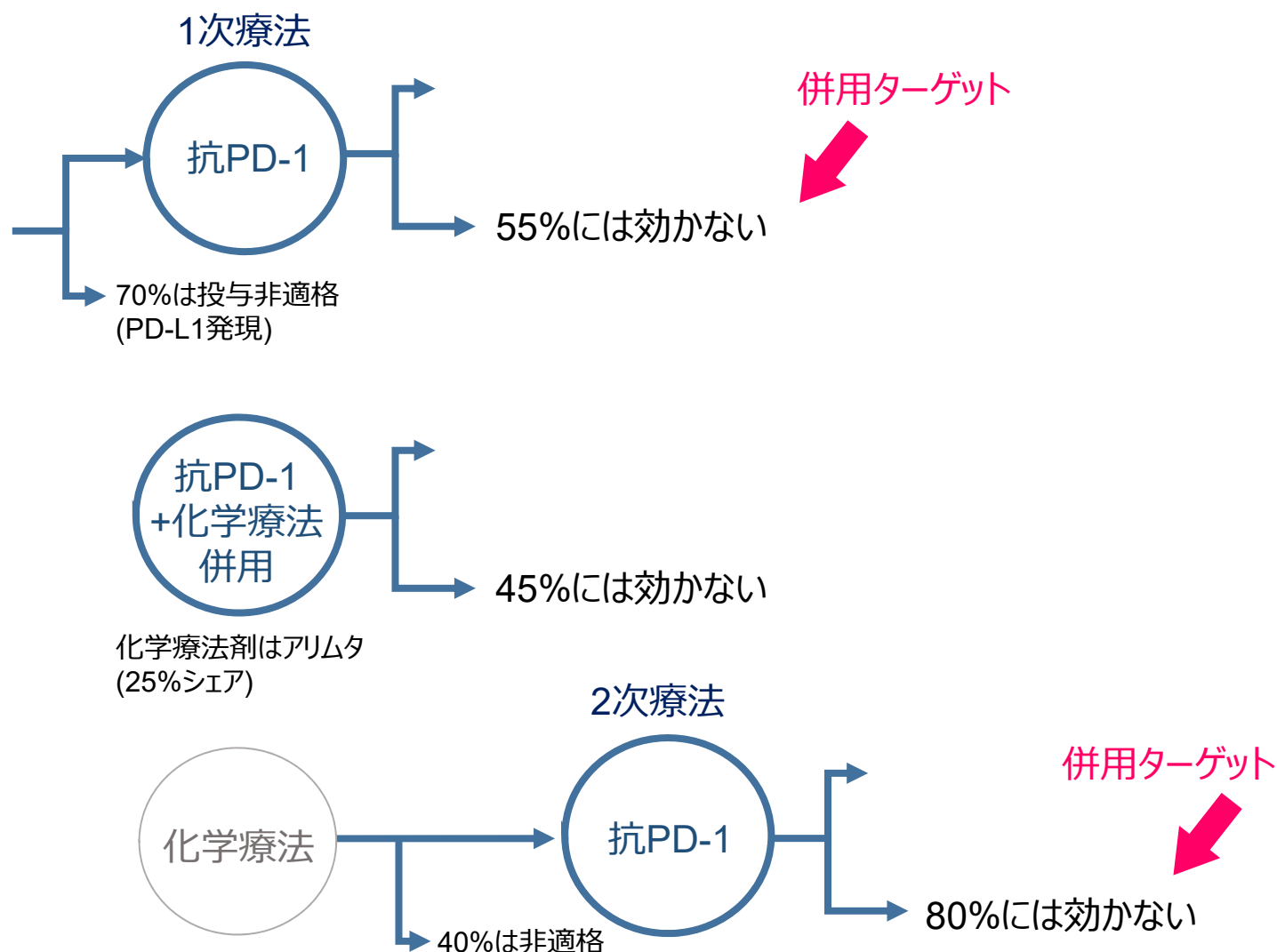
前立腺がん治療におけるITK-1(続)

新薬とすみ分け、去勢抵抗性前立腺がん患者を広くカバー



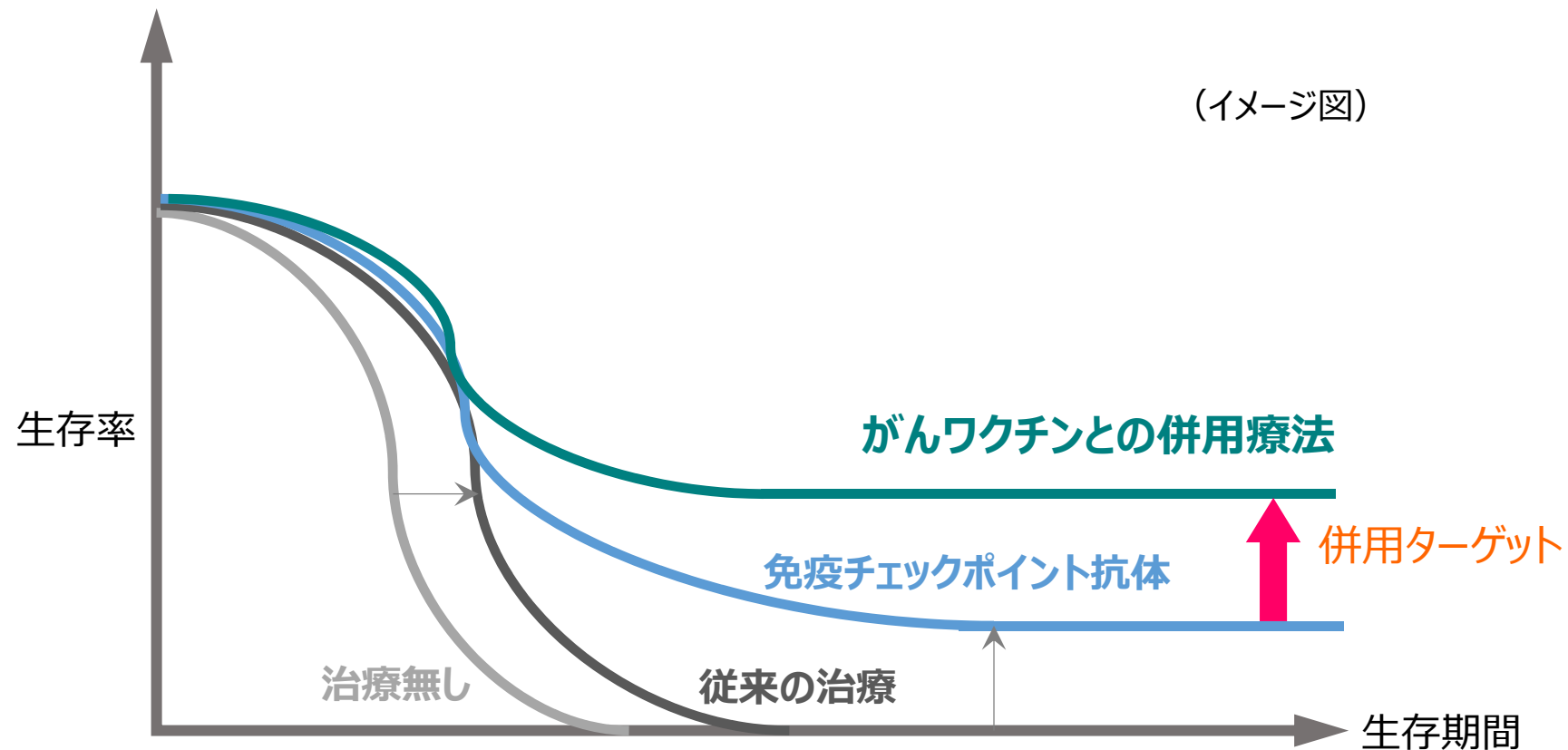
(出所)グリーンペプチド予想

免疫チェックポイント抗体は肺がん治療を大きく変えたが、
スペースは広く残っている



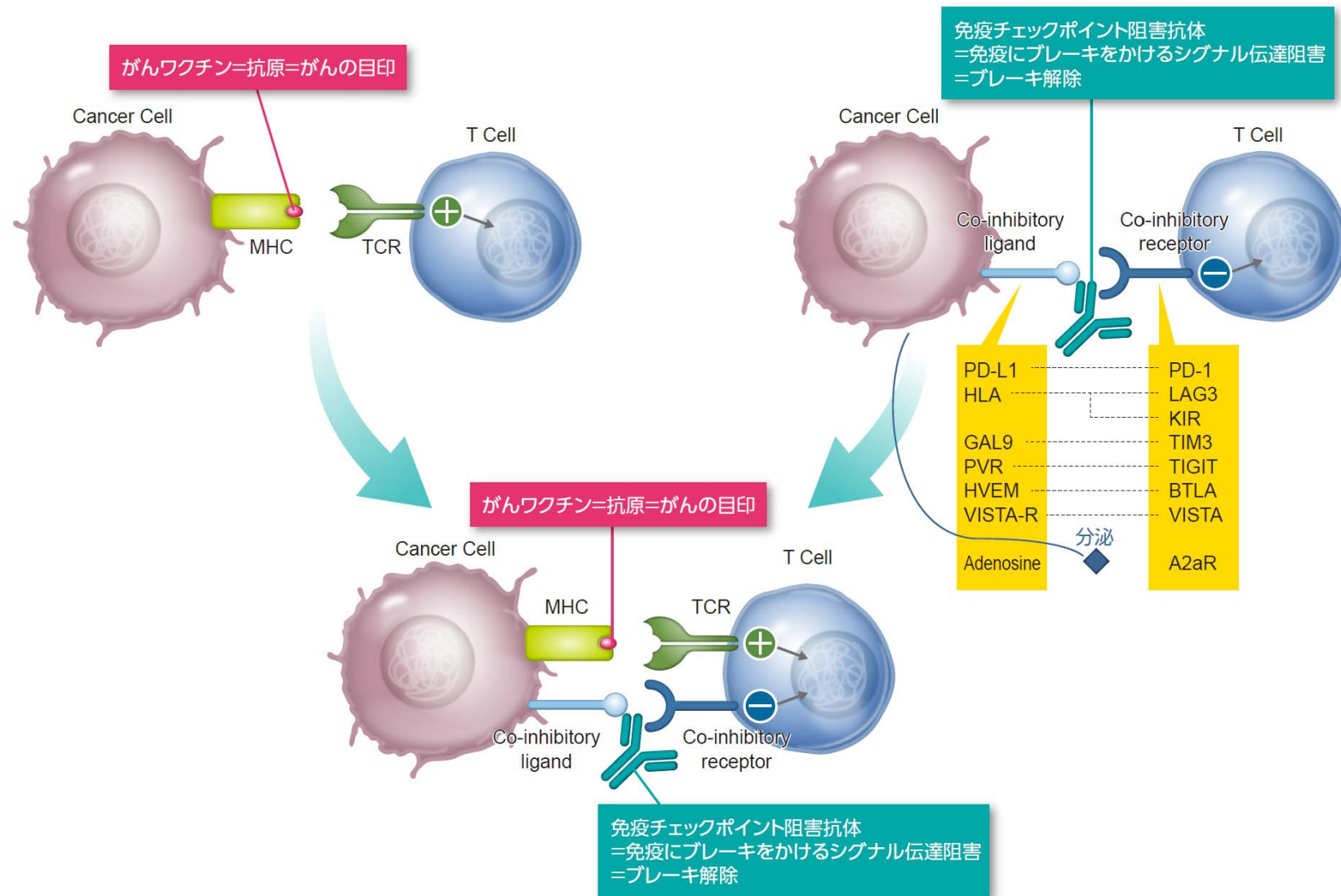
GRN-1201の開発戦略

開発戦略：がんワクチンを併用させることにより、
免疫チェックポイント抗体の効果をさらに引き出す

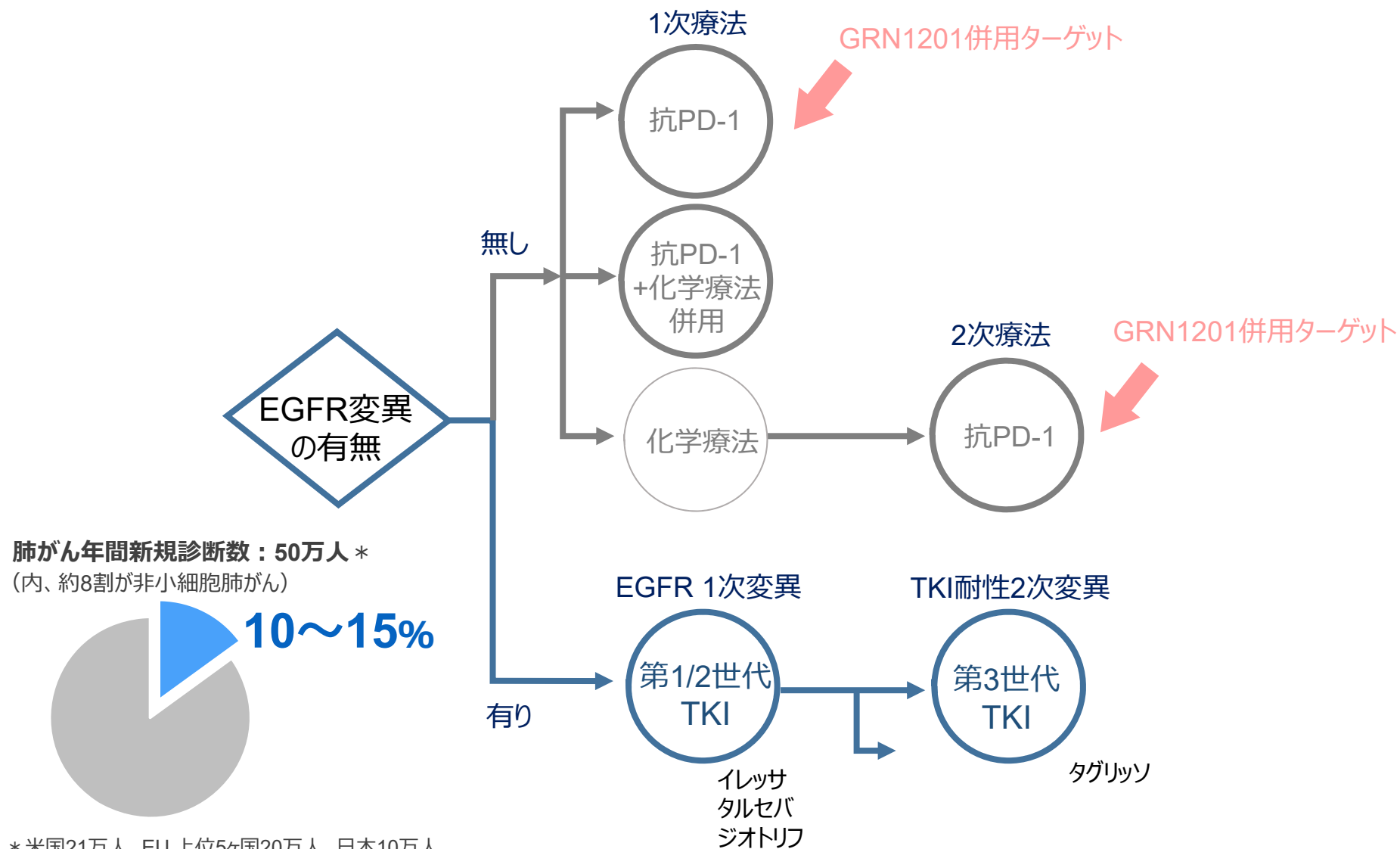


GRN-1201併用効果のメカニズム

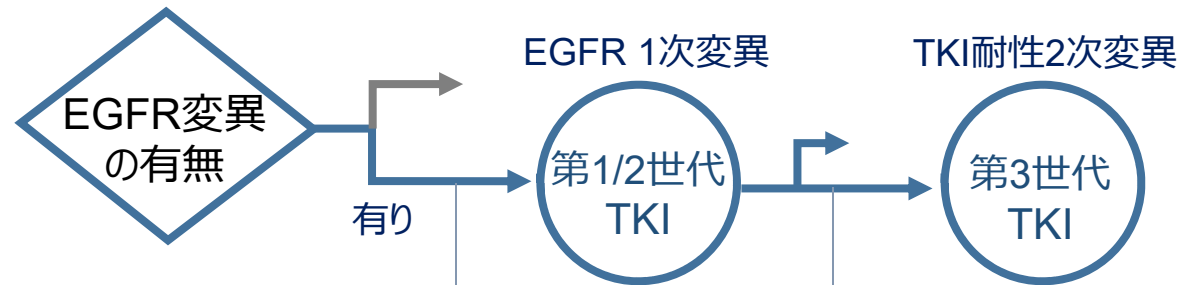
がんワクチンと免疫チェックポイント抗体の相乗効果



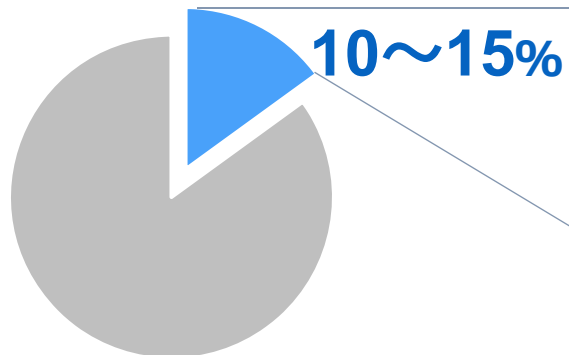
ネオアンチゲン・ターゲット



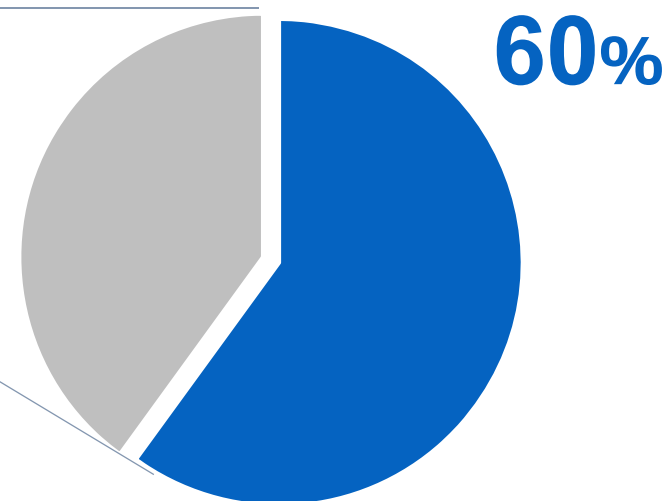
EGFR-TKI治療に対する耐性をもたらす遺伝子変異が6割で発生



EGFR 1次変異陽性



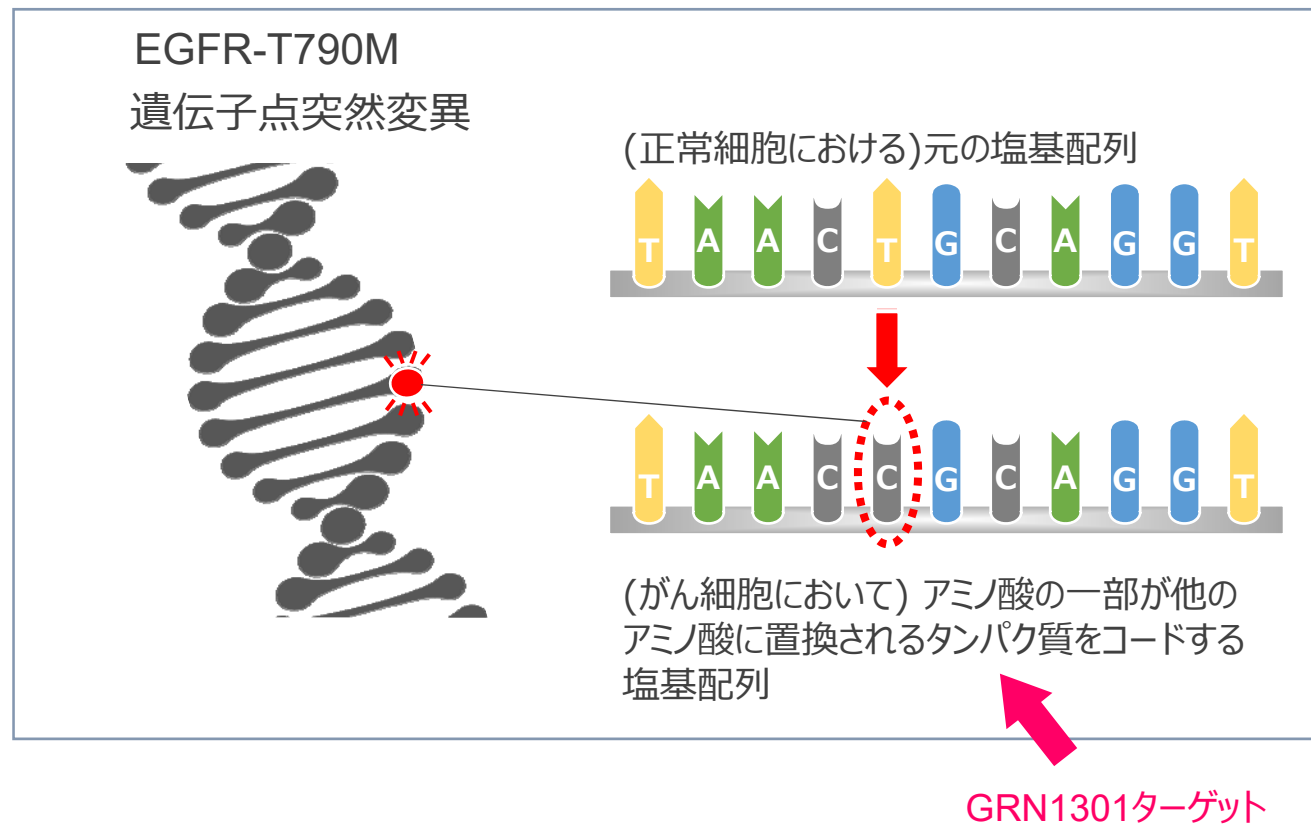
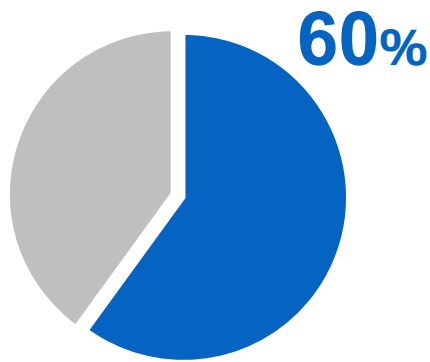
第1/2世代TKI治療に対する耐性をもたらすEGFR2次変異が発生



GRN-1301: ネオアンチゲン ターゲット



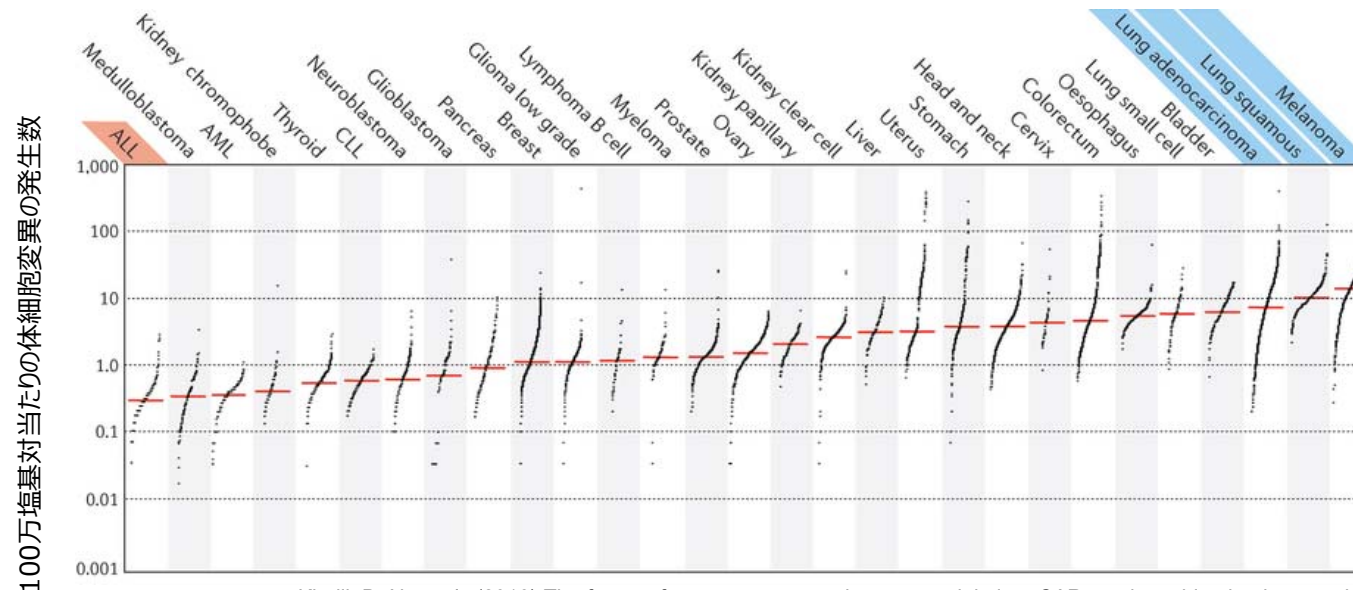
EGFR-TKIを受けたがん細胞でしか発生しないEGFR-T790M点突然変異(ネオアンチゲン)をターゲットとするペプチドワクチン



広がるネオアンチゲンの可能性

1. 免疫チェックポイント阻害剤の効果予測

✓ これまで遺伝子変異が多いがん種で良い臨床成績が得られている



ネオアンチゲンががん免疫において有効ながん抗原となっている可能性を示唆

2. 新しいがんワクチンのデザイン

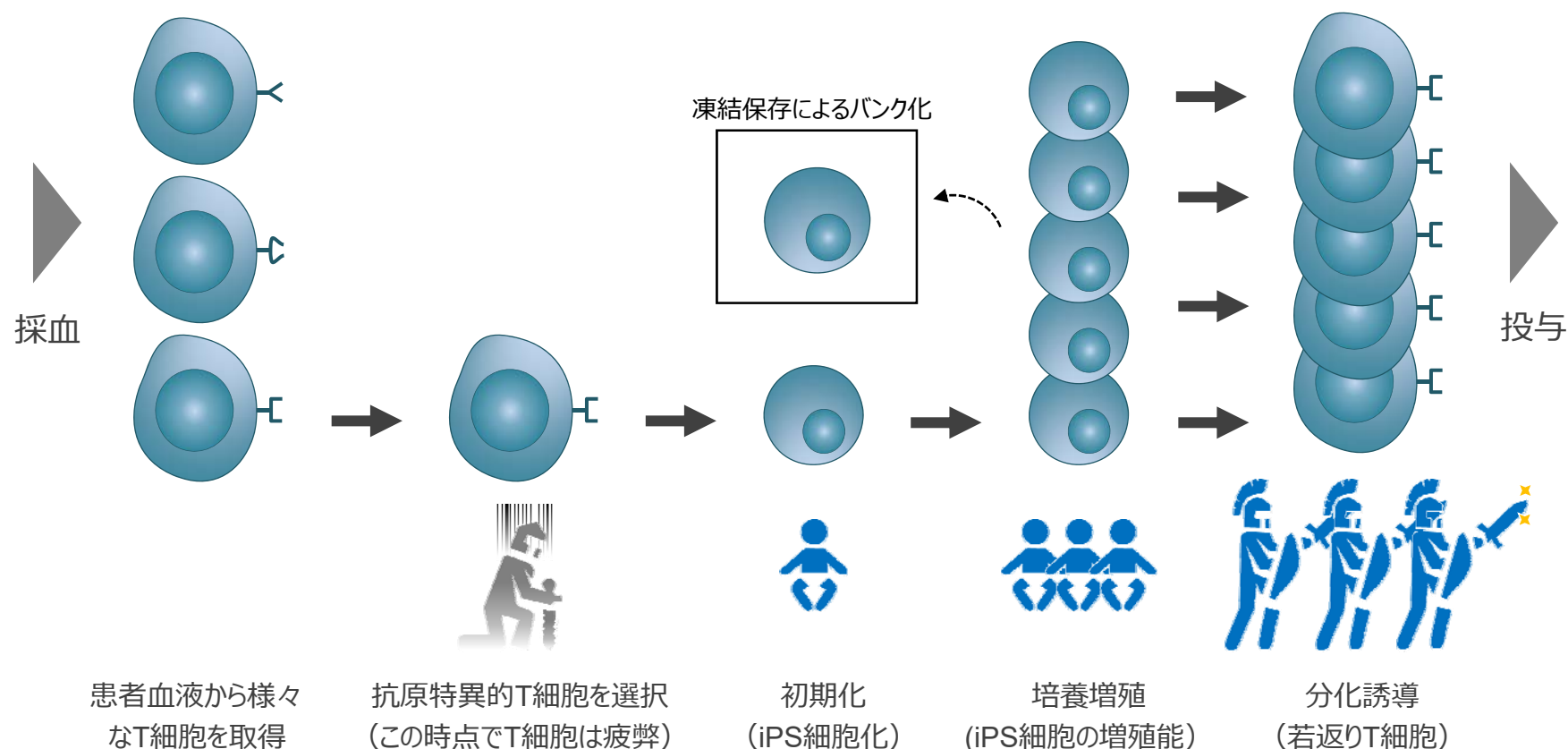
← まずは、GRN1301から

3. T細胞療法の標的(TCR-T, T-iPSなど)

T-iPS: iPS再生T細胞療法

iPS技術のがん免疫療法分野への世界初の臨床応用を目指す

- 2016年12月 アドバンスト・イミュノセラピー社を子会社化
- 同社はT細胞をiPS細胞へ初期化し、再分化することで若返らせることに成功した技術をもつ



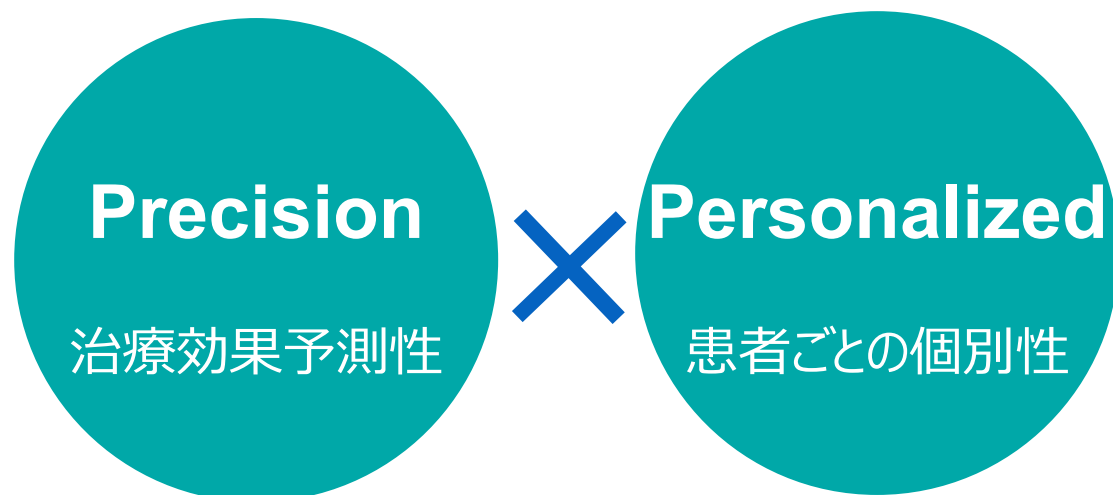
T-iPS:新しいT細胞療法プラットフォーム

若返りによる免疫能増強と、バンク化／他家化による大幅なコスト削減を実現できる可能性

■ 現行T細胞療法との比較

		進出可能領域		
療法	CAR-T (現行)	TCR-T (現行)	T-iPS	T-iPS /iC9
細胞数の確保	制限あり	制限あり	無限増殖可	無限増殖可
T細胞疲弊の影響	あり	あり	なし	なし
増殖能（複製能）	低	低	高	高
副作用対応メカニズム	なし	なし	なし	あり
バンク化	困難	困難	容易	容易
製造コスト	高	高	低	低

これからの がん免疫療法のテーマ



開発テーマ

- ITK-1 テーラーメイド投与法
- GRN-1201 免疫チェックポイント抗体併用
- GRN-1301 ネオアンチゲン・ターゲットの最初取り組み
- T-iPS 細胞医薬モダリティの組み込み

探索テーマ

- ネオアンチゲン・ターゲットの完全個別化への対応
- 免疫チェックポイント抗体に組み合わせる免疫チェックポイント抗体
- 免疫細胞死誘導

社名変更のお知らせ

Pioneering The Unprecedented



株式会社グリーンペプチドから
ブライトパス・バイオ株式会社に社名変更します

BrightPath

Biotherapeutics

「ブライト (Bright)」 = 輝く、「パス (Path)」 = 道筋

3つの
思い

1

創業から変わらぬ、がんの克服に取り組む患者さんとそのご家族、医師、医療従事者を始めとするすべての人達にとっての「希望の光」となるようながん治療薬を創製したいという思い

2

がん免疫療法において、その未解明の領域を当社の「サイエンスの光」で照らすことによって、がん治療革新の一翼を担いたいという思い

3

前人未踏の領域に挑む世界中の研究者・医師にとって、がん免疫療法が進むべき方向性 (Path) を鮮やか (Bright) に指し示すリーダーに、我々になるという決意

* 社名変更については、2017年6月29日の定時株主総会にて上程予定

経営理念

私たちは、がん免疫治療分野の最先端を切り拓くことにより、
一人ひとりが自らの力でがんを克服する世界を実現します。

世界的なテーマである
「Personalized & Precision Medicine」
(患者一人ひとりにあった、治療効果予測精度の高い、治療)へ
将来行き着くために、
人の体内で起こる複雑ながん免疫の仕組みについて、
まだ多くが解明されていません。

私たちは、その仕組みを解明し、
がん免疫療法の最先端を切り拓く
リーディングカンパニーを目指します。

補足資料

会社概要

社名	株式会社グリーンペプタイド		
所在地	本 社	：福岡県久留米市百年公園1番1号	
	東京支社	：東京都千代田区麴町2丁目2番地4	
	川崎創薬研究所	：神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-22	
設立	2003年5月8日		
事業内容	がん免疫治療薬の開発・販売		
資本金	3,774百万円 (2017年3月31日現在)		
役員	代表取締役社長CEO	永井 健一	
	取締役 COO	脇 豊	
	取締役 CFO	酒井 輝彦	
	取締役(非常勤)	山田 亮	久留米大学教授
	取締役(社外、独立役員)	竹内 弘高	ハーバード大学経営大学院教授
	監査役(社外)	今井 義浩	
	監査役(社外、独立役員)	阿部 武敏	
	監査役(社外)	山口 芳泰	TMI総合法律事務所パートナー
社員数	37名 (2017年3月31日現在)		
創業科学者	久留米大学がんワクチンセンター センター長 伊東 恭悟		

お問い合わせ先

【IRに関する問合せ先】

担当役員 取締役 管理部長 酒井 輝彦

TEL : 03-5840-7697

FAX : 03-5840-7716

E-mail : info@green-peptide.co.jp

Web : <http://www.green-peptide.com/>



BrightPath
Biotherapeutics

※ 株主総会の決議をへて、2017年7月1日より社名を変更いたします。